

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン**【 学校評価書 】

堺市立少林寺小学校
校長 富嶋 英行

平成29年度 重点目標 **生きて働く底力を持ち、新しい時代を心豊かに生きる子どもの育成**

・授業改善、少人数の特性を生かした指導、家庭学習習慣の定着を相互的に連動させて「主体的に学習に取り組む態度」を育成することによって総合的な学力の向上を図る。・よりよい学級づくりを通して深める横の人間関係づくり、縦割り活動を通して進める縦の人間関係づくりによって子どもの自己有用感を高め、考えや行動に対する自信と責任が持てるようにする。 ・自分を大切にし、相手の立場になって考えることを大切にして、いじめや差別を許さない人権尊重の精神を育てる。

| 大項目 | 中項目 | 具体目標 | 評価項目 (取組、成果・状態) | 判断基準 (評価のものさし) | 評価方法 | 評価時期 | 達成状況 (年度末) | | | |
|--|----------------|---|--|--|--------------------------------|--------|------------|--|--|--|
| | | | | | | | 自己評価 | 学校関係者評価 | | |
| 確かな学び | 教科学力と学びの基礎力の向上 | 基礎的な知識・技能の習得を図る。 | ・朝の読書タイム、読書ノートの表彰などを通して児童が本に親しむようにし、読書活動を充実させる。 ・昼のわくわくタイムに、漢字や計算ドリルを反復練習して基礎学力の充実を図る。 | ・読書時間数 ・読書のノートの記録・読書博士表彰数 ・わくわくタイムでの漢字 ・計算の定着 | ・アンケート ・評価テスト ・実施状況 | 2月 | △ | ・学校や家でよく本を読んでいる子は、昨年度と同様に64%だった。しかし、学びの診断テストのアンケート調査の、家庭での30分以上読書する子どもは、26%で、昨年より4.1ポイント増えたものの、堺市平均を5.9ポイント下回っている。学校では本を読んでも、家庭での読書習慣にまでいかなかったことが課題である ・今年度、家庭学習習慣づくりの取り組みとして「少林寺っ子」ノートをはじめた。少林寺っ子ノートの提出率は、初年度目標の60%を上回る62%だった。 | ○ | ・学校は読書タイムや読書ノートの活用に取り組んでいる。社会全体で活字離れが進んでいるので難しい面もあるが、さらに取り組みを進めていってほしい。 |
| | | 主体的に学習に取り組む態度を育成する。 | ・「家庭学習の手引き」を改訂し、「少林寺ノート(自主学习ノート)」を作成し、学校全体で家庭学習習慣を確立し、学びに向かう力の育成に取り組む。また家庭学習は、授業や読書指導とも連動させて取り組むようにし、主体的な学びを総合的に進める。 | ・家庭学習ノートの提出率 ・学びの診断、学校評価アンケートの関係項目の結果 | ・学びの診断テストのアンケート | 12月 | ◎ | ・自分から勉強する姿勢を育むことは児童の将来を考えても大変重要なことであり、「少林寺っ子ノート」はよい取り組みである。保護者にも実感してもらえるようになることさらによい。 | ◎ | |
| | 授業改善 | 堺版授業スタンダードに基づく児童が主体的に学ぶ授業づくりに取り組み、思考力、判断力、表現力を育成する。 | ・堺版授業スタンダードに基づき、日々の授業の工夫改善を行い、「教える授業」から「児童が主体的に学ぶ授業」への授業改善を図る。 | ・校内研究授業 ・日常の授業の内容 ・児童のノート内容 | ・アンケート ・授業観察 ・研究授業 | ・アンケート | 2月 | ◎ | 堺版授業スタンダードを基盤に据えた授業改善に取り組み、算数においては、すべての授業で、めあての提示、既習の学習をもとに自分の考えを持ち、学級で意見を交流し合って課題解決することができるようになった。また少人数学級である本校の特性を生かしたきめ細やかな指導は、学びの診断テストや全国学力学習状況調査で学力の向上が数値として表れていた。 | ◎ |
| ・児童が「自分で考える」「グループで意見を出し合う」「学級全体で意見交流する」ことを通して自分たちで課題解決する授業づくりを行う。 | | | ・校内研究授業 ・日常の授業の内容 | ・アンケート ・授業観察 ・研究授業 | ・アンケート | 2月 | ◎ | | | |
| ・すべての教科を通じて「書く力」に重点をおいて、板書事項の工夫と連動したノートづくりを進める。 ・すべての学年が1学級、児童数26人以下という少人数学級の利点を生かして個に応じたきめ細やかな指導を行う。 | | | ・丁寧なノート指導、 ・少人数指導によるつまづきをなくす指導。 | 学びの診断テストのアンケート | 12月 | ◎ | | | | |
| 豊かな心・健やかな体 | 豊かな心の育成 | 心の教育の充実を図る。 | ・道徳の授業をはじめ、すべての教科を通して豊かな心(高い規範意識・豊かな人権感覚・人を愛する心・思いやりの気持ち・命の大切さ等)の教育の実践に取り組む。 | ・人権教育・道徳教育の年間計画に基づいた指導 | アンケート | 2月 | ○ | ・すべての学年で人権教育を教科横断的に取り組み、児童の人権意識は高まっている。学校アンケートの「命の大切さや人として大切なことを学んでいる」の質問には、肯定回答は93%だった。道徳については、次年度の教科化に向けて年間計画の見直しを行ったが、指導や評価についても今後研修を進めていきたい。 ・縦割り活動を通して、高学年児童の下級生を思いやり、やさしく手助けする場面を数多く見かけた。 ・毎朝、校長が校門に立つての登校指導、毎週水曜日の児童会による挨拶運動を実施し、年間を通して挨拶を指導した。その結果、学校アンケートの「学校が子どもの挨拶指導に取り組んでいる」の保護者の肯定回答は98%であった。 | ◎ | ・教科学力とともに、心を育てることは大変重要である。全校朝礼等でも静謐な環境でしっかり話を聞くことができてきている。 ・縦割り活動を通じて、高学年が低学年を気にかかけ、寄り添って教える習慣が身についている。 ・児童間においても地域の方に対しても、なれ合いにならないように親しき仲にも礼儀ありということ今後も引き続き指導していってほしい。 |
| | | | ・クラスづくりと縦割り活動を通して横と縦の人間関係づくりに取り組み、子どもの自己有用感を高め、考えや行動に自信と責任が持てるようにする。 ・毎日の登下校時の挨拶を通して、コミュニケーションの基礎を培う。 | ・年間を通した挨拶指導の実施 | ・アンケート ・実施状況 ・毎日の登下校時の様子 | 2月 | ◎ | | | |

| | | | | | | | | | |
|-----------------|--|--|---|--|-----------------|---|--|---|---|
| きめ細かな生徒指導 | 子どもの理解を深め、家庭や専門機関との連携を図り、きめ細かな生徒指導を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「いじめアンケート」や「生活習慣チェック」を通して児童の実態を把握し、家庭と連携しながら、いじめや問題行動の未然防止、早期対応に努め、児童に寄り添った生徒指導の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の良好な人間関係の確立 生活習慣の改善 | <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケート 生活習慣チェック | 5月 9月 1月 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 今年度、いじめアンケートの中身を全面的に見直し、さまざまな事象でもキャッチできるようにし、本当のいじめかどうかについて、必ず児童に確認し、担任だけで判断するのではなく、担任・生指・管理職でチェックできるようにした。 家庭学習のとりくみである少林寺っ子ノートに日記指導を含めるようにして、担任と児童の心のつながりがノートを通じてもてるようにした。今後、日記指導を充実させることによって、児童からのSOSをいち早くつかめるようにしていきたい。 | ○ | <ul style="list-style-type: none"> いじめにつながる問題行動に対して初期段階から丁寧に対応していた。大きないじめはなかったと認識している。 当初、課題のある児童の対応に苦慮する様子もあったが、落ち着いてきたように思う。学力保障の観点からも保護者が安心できるよう、学校としての体制などを保護者全体にしっかり発信していった。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 特別な支援を要する児童の指導にあたっては、学校全体で支援体制を組み、特別支援教育の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 校内特別支援委員会 事例報告 校内研修会の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 状況の改善の変化 | 7月 11月 2月 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 今年度、当初予定していたより支援を要する児童が多く、対応に追われることが多かったが、学校全体でチームで対応して、適切に対応することができた。また月1回、SSWの先生を招いて、特別支援委員会を開き、課題のある児童の対応について、常に専門的な指導を受けることができ、すぐに実践に移すことで、よりよい対応ができることが多かった。 | ○ | |
| 人権教育 | 人権尊重に根ざした教育の推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> トラヂタイムをはじめ学校行事等の様々な場面を通して、異文化理解・多文化共生の教育を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> トラヂタイム等で多文化共生教育の推進 | アンケート | 12月 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> トラヂタイムを月に1回実施し、外国ルーツのある児童が自尊感情が持てるようにすると共に周りの児童の理解を深めることができた。民族教室や多文化教室に民族講師だけでなく、すべての教職員が積極的にかかわることで、学校全体が多文化共生を進める意識が高まった。 陵西校区の4校が、年間を通して交流することを通して、中学校区が一体となって人権教育や学力向上を進めていこうという意識が高まった。また児童も小学校3校での交流を学年ごとにもち、中学への進学前から、顔見知りになったり、仲良くなることができています。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 計画どおり実施できている。 外国ルーツのある児童が自信をもって学校生活を送り、周りの児童も多文化に理解をもち、楽しく学習している。 陵西中学校区で協働して教育活動に取り組む姿勢を見せている。小学校交流や小中交流も積極的に実践できている。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 陵西中学校区としての「部落問題学習」を人権教育の中に位置づけ、陵西中学校区の教職員と連携してこれまでの実践を大切にしながらか地域の实態に学び、教職員・児童の交流を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> 公開授業の開催 4校交流会の開催 | 実施状況 | 6月～2月 | ◎ | | ◎ | |
| 地域協働 信頼される学校 | 緊密な地域連携、地域協働による地域に根ざした学校づくりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページ、学校だより、地域の会議への参加等を活用し、学校の教育活動の現状と成果の発信に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページのアクセス数の増加 地域の方々の声 | <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページのアクセス数 アンケート | 4月～3月 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページで、児童の学校生活の様子を毎日、丁寧に伝えた結果、学校ホームページへのアクセス数は、昨年を25%上回っており、学校アンケートでも96%の保護者から学校からの情報発信を評価する回答を得た。 地域の体育大会、地域主催の少林寺フェスティバル、防災訓練等に児童や教職員が積極的に学校が参加し、地域と一体となった学校づくりを今年度も推進することができた。 | ◎ | <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページのアクセス数が増加しており、地域からも発信を楽しみにしている声を聞く。 安全見守り活動うをはじめ、地域の協力体制は充実しているため、安心して通える学校づくりに努めてほしい。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 地域人材の活用や地域の方々の学校行事への参加、学校からの地域行事への参加を積極的に進め、緊密な地域連携・地域協働による学校づくりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域人材活用数 登下校時の安全指導に地域見守り隊への協力状況 | <ul style="list-style-type: none"> アンケート 地域人材活用数 見守り隊実施報告 | 2月 | ◎ | | ◎ | |

| | |
|---|---|
| <p>校長より（年度末） 授業改革がすべての学級で進み、学力の向上が見られた。研修教科の算数は、学びの診断テストで4学年中3学年で堺市平均を上回り、下回った学年でも同一集団の比較では、正答率が上昇している。学級づくりと縦割り活動による横と縦の人間関係作りが調剤に進み、学級活動としての自発的な挨拶運動を行う学年が2つの学年で見られた。よりよい学級づくりやよりよい学校づくりに取り組む学級活動や児童会活動がさかんに見られるようになったことは、今後の児童の自尊感情の高まりに繋がっていくことが期待できると考える。</p> | <p>学校関係者評価から（年度末） 学校の教育活動については信頼している。教育目標に沿って実践できていると思う。教科学力向上は喜ばしいので、今後も学力保障とともに将来に向けて自己責任のきちんをとれる児童の育成に力を注いでほしい。</p> |
|---|---|